

第25回奄美を描く美術展：審査概要 (審査員長略歴、総評、内訳等)

審査員長 大矢 紀(おおや のり) 氏 略歴

昭和11年(1936)日本画家の父大矢黄鶴(こうかく)氏の長男として、新潟県に生まれる。17才の時、前田青邨の《洞窟の頼朝》に感銘を受け画家を志した。昭和30年19才の時に院展に初入選し、以後70回出品している。前田青邨、平山郁夫に師事。

これまで、文部科学大臣賞や内閣総理大臣賞、日本芸術院賞などを受賞し、また紺綬褒章を計7回受章している。

現在は、日本芸術院会員、院展同人・理事、長岡市名誉市民、川崎市市民文化大使などの肩書きをもちながら、若手作家の育成にも尽力している。

審査員長総評

10代の高校生から80代までの幅広い年齢層の作家が、それぞれの視点で奄美を捉えた力作が多数出品されており、その中から60点を選ぶのに大変苦労した。奄美の光や風、伝統行事などを見聞きし、経験したからこそ得られた感動や思いが作品の根底に感じられた。決して大きな作品ではなく、15号までの小品だがこれだけ丁寧に描き込めることは並大抵ではなく、感服した。

内訳	出品点数	124点	入賞	10点
	出品者数	101人	入選	50点
	最年少	15歳	合計	60点
	最年長	86歳		
	初出品	33人		
年代別	10代…4人	20代…5人	30代…5人	40代…12人
	50代…21人	60代…16人	70代…30人	80代…8人
住所別	島内(奄美大島)	37人		
	群島	8人		
	奄美群島以外の鹿児島県	11人		
	県外	45人		
種類別	油彩	37点		
	アクリル、水彩	56点		
	日本画、水墨画	14点		
	工芸	3点		
	その他	14点		
	(ミクストメディア・火山灰・ペン・鉛筆・クレヨン・型染など)			
最北:群馬 最南:沖縄				

最北：群馬
最南：沖縄